

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	児童作文にあらわれた「思う」の語にともなう心理的内容とその形式について
Author(s)	鳴海, 周子
Citation	児童の言語生態研究 , 9 : 59 - 72
Issue Date	1978-06-08
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045107
Right	
Relation	



■児童の言語発達の研究

児童作文にあらわれた

「思う」の語にともなう



心理的内容とその形式について

鳴海周子

私達大人は、子供の文章を読んだ時に、「これが一年生の文章か、それには随分まかせているな。」とか、「やっぱりまだ小学生だね。」とか、相当学年を見当づけることができる。これは、文中に用いられている語彙や表現形式等に、その人の思い方や意識を向ける方向を感じることができるところであり、その思い方や意識のむく方向に発達する順序を思うからである。だから、発達段階をふんで多様な思い方や意識のとめ方ができるようになった大人は、その発達段階初期の子供の段階を見当づけられるのである。しかし、このような大人の見当の裏付けは、未だなされていない。見当に頼るだけでなく、子供の実態を把握した上で始めて、発達に応じた教育がなされるのではないだろうか。

本研究の目的

私達人間は誰ひとり同じではない。各々、顔、体格等が違っているように、その精神作用、行為も違う。その違いは、「ここら」の働きによるものであると思う。「ここら」には、内臓の意もあるが、ここでは、人間の精神作用のものになるものという意味で使っている。「ここら」は見ることはできないが、その働きを通して、私達の知・情・意の面で表われてくる。それ故私達はただ、表現されたものを通して「ここら」を判断するより他ない。その「ここら」の表現手段の一つに言葉がある。「思う」「想う」「憶う」「懐う」「考える」「信ずる」「感じる」「恋しい」「愛する」「願う」「希う」「望む」など、「ここら」の働きを表わす言葉はたくさんある。しかし、私達は、言葉で「ここら」を表わそうとする時、多く「〜と思う」と使っている。

「思」という語は、であり、脳蓋を意味する「」と

「心」とを合わせた字である。字義は、「脳中にある心」この心は脳にある心(心臓)の原義とはちがいが、孟子の告子上篇の「心の官は則ち思ふなり」とあるように「脳中に在る精神(心)」「心の機能」の意である。すなわち、「思」という字自体が心の働きを示している。また、意味も①の顔つきをする。表情をする。②物事の条理・内容を分別するために心を動かす。判断する。思慮する。感じる。③もくろむ。ねがう。希望する。④おしはかる。予想する。想像する。予期する。⑤心に定める。決心する。⑥心にかける。憂える。心配する。⑦愛する。慕う。いつくしむ。大切にする。⑧過去のことを思いおこす。思い出す。とある。「思う」は、このように「ここら」の働きの最も広い意味を含んでいると言える。

私達の「ここら」の働きは、一定で不変なものではなく、変わりうるもの、変わるものである。この変化とその表現

四年 つばさ 50年
 八作 文V
 全校作文 南大谷小

○各学年カード数

一年	一〇三枚	二年	三七四枚	三年	四〇七枚
四年	三五六枚	五年	三八二枚	六年	一六八〇枚

○上接語調査時のカード数(全カード中、不備なものを除いた。)

一年	一〇二枚	二年	三五六枚	三年	三七四枚
四年	三三一枚	五年	三五六枚	六年	一四六二枚

調査結果とその考察

方法で述べた二つの観点から結果を示し、考察していくことにする。

(1) 「思う」の活用形についての調査結果

まず、全カードをもとにした動詞・副詞・名詞の使用頻度を百分率で示した。ただし、動詞の細分については、下へ接続しているものも含めて言い切りの形で代表させたグラフ1。

最初の予想通り、副詞・名詞例はその多を見ても非常に少ない。動詞については、どの学年においても「思いました」「思います」「思った」「思う」の四語が多く、その三分の二以上を占めている。しかし、この四語の表われ方は学年により異なっている。

次に動詞に限り、各学年における新出語を調べてみた。表1。表より①学年が進むに従って新出語が増えている。②各学年とも、終止形以外では連用形のもの「思ひ」「思ひ」が多く、未然形・仮定形・命令形のものには少ない。③学年が進むに従って、下接語を伴わせることができるようになり、文節が長くなる。以上のことが言える。グラフ1では動詞の細分にあたり、下へ接続しているもの、つまり下接語を伴っているものも言い切りの形で代表させ

たので表われなかった下接語が、表1で表わされた。これを見ると、「思う」と「思った」の時、最も多く下接語を伴わせている。これらの語においては、意識できた思いを、接続詞を用いることによって、さらに判断したり、評価することができていると言える。

次に、グラフ1において使用頻度が高く、またその表われ方が学年によって異なっていた「思いました」「思いました」「思った」「思う」について、及びこの四語に続く使用頻度を示した「思っている」「思っていた」「思っています」「思っていました」について、焦点を絞って調べてみた。

グラフ3・4。グラフ1同様、下に接続しているものも含めて言い切りの形で代表させた。グラフ化した段階で、グラフ4に表わした四語は、使用頻度百分率からすると、グラフ3に表わした四語の四分の一程度であるが、学年による発達が似ているので、共に考察していくことにする。

ここで、使用頻度という分類をはなれて、八語の動詞そのものに着目してみた。表2。ふつうの言い方、ていねいな言い方という言い方の違いから二分、時制の違いから二分、さらに時制において、その相の違いから二分したものである。この分類でみると、グラフ3の四語に共通しているのは、単純相、グラフ4の四語に共通なのは、持続相ということになる。

グラフ3・4及び表2から、次のことが言える。①低学年では、「思いました」「思います」「思っています」「思っていました」の四語が群を抜いて、その使用率が高い。つまり表2の分類によると、ていねいな言い方に属する四語ということになる。そこで、便宜上名前をつけ、丁寧型とした。②中学年では、「思った」「思っていた」「思いました」「思っていました」の過去に属する四語が現在形との比較において使用率が高いので、過去型とした。③高学年では、「思う」「思います」「思っている」「思っています」の現在に属する四語の使用率が高いので現在

型とした。

高学年の現在型を裏付けるものとして、四年生から五年生への移行で、その頻度数が増えるものと、減るものがある。グラフ5・6。「思ひます」と「思ひています」は、五年で方向をかえて増える。この二つは、丁寧な言い方の現在形であるが、四年生までは、丁寧な言い方という意識の方が、現在形という意識よりも高く、そのために学年を追って減ってきた。しかし五年生になって、現在形であるという意識に変換したために、その方向をかえ、増えたとと思われる。これに対して、「思った」「思っていた」は、方向をかえて減る。この二つは、ふつうの言い方の過去形であるが、現在形が意識されると同時に、今まで優勢だった過去の意識がうすくなったものだろう。

これらのことから、言い方の違い(特に丁寧な言い方が意識されていたが)と時制という縦軸と横軸のある座標から、横軸だけの、過去か現在かという一次元の世界に次元がかわったと言える。

今まで使用頻度の高かった八語について考察してきたが次に下接語意識について調べてみた。表1によると、「思う」と「思った」の時最も多く下接語を伴わせることができている。この意識は、学年が進むに従って高くなるのではなく、四年生が一番高かった。グラフ7。さらに、活用形との関係で下接語をあげてみた。表3。下接されている語は、範囲が広く、逆説の接続助詞・原因・理由を表わす接続助詞・終助詞・及び「だろう」「でしょう」名詞等である。

(2) 「思う」に上接するものについての調査結果

どのようなことに意識を向け、そして「思ひ」の語で表わそうとしているのかを見るために、方法で示したように「思ひ」に上接するものの一文節、及び二文節を調べた。これは、内容をどのようにとりまとめたか、つまりどう意識化したかを見るためであった。表の作成にあたっては、「思ひ」の上接の一文節及び二文節の上の語もせた。この表より、「助動詞十」と(以下、このような形のも

のを「と」つき、これ以外「と」のつかないものを「と」ぬきと呼ぶことにする。(等)の「と」つきのものが非常に多かった。

方法での分類では、「と」つきが9、「と」ぬきが「形容詞運用形」「助詞」「その他」の3つと明らかに「と」ぬきが少ないが、使用頻度でもやはりそうであった。そして、「と」ぬきは、一年では全く使われてなく、二年でわずか、中学年・高学年と増えていっている。「と」ぬき、形容詞運用形で「くやくしく」は、「と」つきでは「くやくしい」とになるが、単に「と」がついているかいないかではなく、そう思う意識に差が見られる。同じ様に、「と」ぬき助詞で「残念に」は「残念だ」とになるが、これも違う。内容をとりまとめる方法、及びその内容については、表作成の段階までで、「と」つきと「と」ぬきの意識の差。活用形との接続関係、内容の分類等で行っていない。内容については、新出語彙において、確かに学年による違いが見られた。

学年による特徴

一年生の特徴

活用形からの結果から丁寧型としたように、丁寧な言い方(動詞分類表2)の「思いました」が42・7%、「思います」が25・1%である。二つとも丁寧な言い方で時制の分類では単純相である。特に、過去・単純相・丁寧な言い方の「思いました」が動詞中の三分の一以上を占め、一語でこのくらいの%を示している語は他学年では見られない。丁寧な言い方の分類ではもう二語あるが、これらは持続相であり、「思った」「思う」というふつうの言い方の単純相のものより%が低い。これらのことから、一年生は、時制で比べると過去、相の違いで比べると単純相、言い方で比べると丁寧な言い方の方が、各々強い。

下接語を伴わせることは少なく、「けど」「ら」のように省略形の短い語のみを使っている。

上接語は、全て「と」つきで、その中でも「たいと」

続いて「なあ十と」が多かった。

二年生の特徴

一年生とともに丁寧型としたが、一年生とは、その比率において異っている。「思いました」29・8%、「思います」26・1%である。一年で特に多かった「思いました」が減り、「思います」とほぼ同じくらいになった。この二語に続く「思った」が、一年では7・7%であったが、19・1%になった。これは、丁寧型に分類はしたが、次の過去型への移行期であることを示している。新出語数も一年の二倍以上に増えている。

下接語の数も増え、「が」「から」「ので」が使われている。下接語は、その種類によって以下文節が続くものと続かないものがあるが、「が」を除くと、他は「ので」であるが「の」のように下に接続可能なものである。一年生では、その多くが下に接続できない語であったことからすると、一段階の発展と言える。

三年生の特徴

一・二年での順位が三年でがらりとかわってしまった。「思った」22・1%、「思いました」21・6%、「思う」16・0%、「思います」15・7%となり、過去時制のものが多くなっている。持続相の方もわずかではあるが「思っていた」「思っていました」という過去時制のものが多し。「思う」が5・9%から16・0%と、急激に増えたのも見のがせない。上接語では、「なあ十と」が一位となる。三年生が過去時制のものが多いことと関連して、過去を思う時、強く心を動かされたこと、感動した場面だけを意識に上げらせているということである。

四年生の特徴

三年同様、現在形との比較において過去形が多いので、過去型としたが、三年とは違いふつうの言い方が多く使われている。

一・二年では、言い方ということに向いていた意識が、

三・四年になって時制ということに意識が変ってきたもの

と思うが、三年では、単に過去へ向いてた意識が、四年になって、過去の使い方の他に言い方に意識がうつっているものと思う。「思った」「思う」とふつう言い方の二語が、一・二位となっている。

下接語については、四年生が一番多く使うことができ、「り」「かも」が表われてくる。上接語は、「だ十と」が一番多く、他人を「なまいきだ」と思ったり、自分の状態を「ゆううつだ」「はじだ」と思っている。

五年生の特徴

活用形の分類では、現在型としたが、今まで一年から四年まで学年に従って変化していったものが、その方向をかえる学年である。丁寧な言い方へ意識が向かい、それ故に学年を追って減り続けてきた「思います」「思っています」が、方向をかえて増える。これに対し、過去ということが増え続けた「思った」「思っていた」が方向をかえて減る。「思います」が19・9%で一位になっているが、低学年の丁寧型の意識とは明らかに違い、時制の現在形に意識が向いてきた。以下、「思った」17・0%、「思う」16・5%、「思いました」16・2%と、ほぼ同じ%でならんでいる。

上接語で、低・中学年に比べ「と」ぬきが多くなってくる。六年生の特徴

「思う」25・6%、「思います」16・4%、「思った」14%、続いて「思っています」9%、「思っている」5・9%となっている。現在形のものも先行している。「思っている」「思っていた」でも下接語が見られ、全般に下接語を伴うものが多くなり文節が長くなる。

「と」ぬきも他学年に比べ多くなる。その中の形容詞運用形で、「くやくしく」「なつかしく」「はずかしく」「ありがたく」「意地悪く」「うらやましく」などがみられる。さらに、他学年ではほとんどみられなかった「思わせる」「思われる」「思える」等が使われ始める。

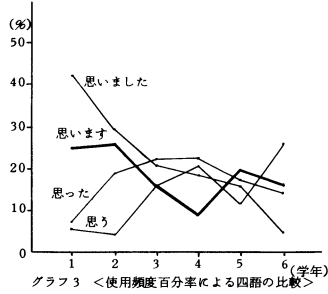
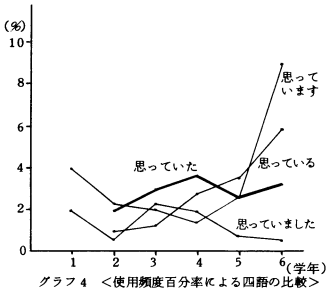
(青森・弘前第三大成小)

五 年	四 年	四 年	三 年
<p> 思いますか。 よ。 思うし、 けど、 とともに、 んです。 んですけど、 まま、 ままなので、 ことがあります。 時があります。 思ったからには、 のである。 でしょう。 りした所は、 りして、 りしているうちに、 とうり、 思っているけれど、 でしょう。 ので、 のでは、 らしい。 思っていた友達も、 思ってた日が、 思いで、 思いもよらないほど、 思えた。 思えてきます。 </p>	<p> 思っていたが、 から、 だろう。 思っていたのだ。 のと、 にちがいない。 思っていました、 思えてくる。 思えばいい。 思っていませんでしたが、 思ってもいけませんでした。 思い出してしまうのです。 思いつく。 思いうかべた。 思いしったか。 </p>	<p> 思うのは、 のけれど、 だろう。 こともある。 ぐらいです。 ぞんぶん。 やつは、 な。 ね。 思ったくらいだ。 からだ。 のが、 のだ。 だけで、 より、 かというと、 りした。 りもします。 ことは、 ことがある。 時は、 とたん。 思ってもみて下さい。 さ。 いながら、 思っているらしく、 のかな。 んだよ。 かもしれない。 </p>	<p> 思っちゃう 思ってみてみると、 思ってたのだろうか。 思い。 思いながら、 思えるけれど、 思いません。 思っていなかった。 思っていないよう、 思い出すのです。 思い出したからです。 思い出せば、 思いつかない時は、 </p>

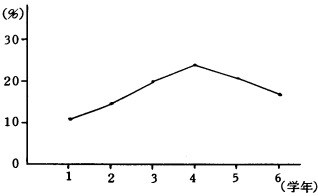
六 年	六 年	六 年	五 年
<p> 思っているから。 からです。 ことを ことが、 ことです。 模型 思い出 者 友情 思っていたけれど、 より からです。 のですが、 だろう。 らしい。 そうですが、 とうりに、 以上に、 とたん ことを ことが 時だった。 ころだった。 クラブ 宿題 思っています。 が、 し、 ので、 </p>	<p> 思ったのを、 のですが、 くらいだが、 だけでなく、 り、 りする。 りもした。 にちがいない。 からです。 ためです。 こともある。 こともあるし、 こともあった。 こともあったような 気がします。 こともありました。 ことが、 ことがあった。 ことを、 ことの、 ことや、 ことさえも、 思っているが、 し、 のに、 けれども、 より、 にちがいない。 時でも、 </p>	<p> 思うようになった。 ようになりました。 ようになってきた。 ように～ない。 ので、 のです。 のですが、 のである。 けれど、 からです。 からなのです。 のだ。 のだが、 のだけれど、 だけだ。 だろうが、 でしょう。 かもしれません。 ことも、 ことがある。 こともあるが、 こともあるけれども、 時がある。 時もあった。 ような。 気持 心 思ったけれども、 し </p>	<p> 思えるのです。 思わせられます。 思わないのに、 ように～ない。 思い出したのである。 思い出してみると、 いたきたいこと 思い出し、 思い出さない。 思い出されてきた。 思い出せば、 </p>

表2 <動詞「思う」の分類>

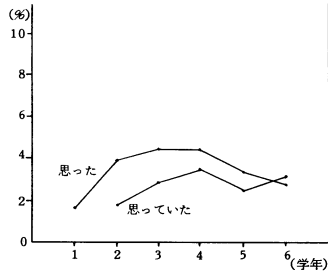
		ふつうの 言い方	ていねいな 言い方
現在	単純相	思う	思います
	持続相	思っている	思っています
過去	単純相	思った	思いました
	持続相	思っていた	思っていました



グラフ7 <下に接続できているもの>



グラフ6 <5年で低くなるもの>



グラフ5 <5年で高くなるもの>

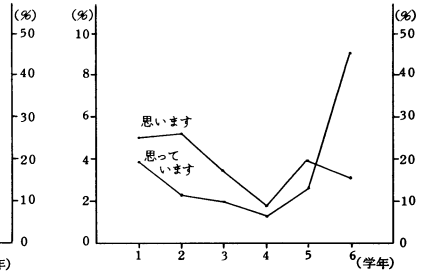


表3 <活用形と下接語の関係>一学年別新出語から

活用 学年	思った	思いつた	思う	思いつる	思いました	思っていました	思います	思っています
1	けどら	けどらのに	らしいん					
2	がからののでのらしいところ	が	とからよるとき	との	が		けど	
3	けれどよりよきときとうり	のでの	がほどのよきにでしようとうり	けどうち			が	
4	だけくらいりかたん	からだろうに	ぐらいなねだろう	んか		が		
5	でしょう		けどまま	けれどでしょうらしい			かよ	
6	けれどもため	けれどよりだろらしいこときょうころ以上とたん	けれどのでだけ	がのにけれどもしよりにからこと				がしので

六 年	六 年
<p>思わずにはいられなかった 思ってもみなかったので、 思い出すことは、 ことがある。 思い出しても、 みると、 思い出したのか、 思い出しました。 思い出させてくれる。 思い出されます。 思い出そう。 思い出せないが、</p>	<p>思っているも、 思っていた。 思っていました。 思ってしまう。 思える。 のか、 思えた。 思えました。 思えます。 思えるぐらいまでは、 思えたことでしょう。 思えたかもしれないが、 思えた工事、 思えてきます。 思えてならなかった。 思われた。 思われました。 思われるために、 思われた人、 思われてきた。 思わず。 思わせるような、 思わないが、 思わなくなった。 思っていない。 思っていないが、 思っていない。 思いません。 思いませんでしたが、 思えないほど、</p>

